

2023年8月22日作成

Ver.1.4

## 高リスク限局性前立腺癌に対する前立腺全摘術における neoadjuvant hormonal therapy 併用の効果に関する研究

### 1、研究の目的と意義

前立腺癌は本邦における男性の部位別がん罹患数の第1位となっており、高齢化や食の欧米化などに伴い、今後も患者数の増加が予想される疾患です。転移のない前立腺癌の治療は手術療法や放射線療法が選択されます。高リスクの前立腺癌は手術後も再発のリスクが高いとされています。近年ロボット支援手術により手術成績の向上が報告されていますが、手術後の再発率を低くするためにさらなる治療の発展が望まれます。本研究では、転移のある前立腺癌の標準治療であるホルモン治療をネオアジュバント療法(術前のホルモン療法)として使用することにより、術後のPSA再発リスクを軽減することができるか検討します。また、これらの診療情報から、大規模な集団における複雑な解析が可能となり、今後の前立腺癌の診断方法や治療法の発展に重要な情報を提供し、生命予後や生活の質の向上に貢献したいと考えています。

### 2、対象となる患者さん

2014年9月1日から2021年1月31日の間に、長崎大学病院において前立腺癌に対するロボット支援手術を受けた方で高リスク限局性前立腺癌と診断された方を対象とします。

### 3、研究の方法

カルテ情報を用いて、前立腺癌の治療成績および術後再発リスク因子等について検討し、治療の臨床的意義を明らかにします。また、根治治療のために摘出された前立腺の病理標本として保管されている検体を用いて、免疫染色などを行い、免疫組織学的に有用な因子がないか検討します。

### 4、研究に用いる試料・情報

- ・臨床所見(年齢、性別、身長、体重、ECOG Performance Status など)
- ・既往歴、生活歴、家族歴
- ・検査結果(血液検査、尿検査、尿細胞診、画像検査、病理学的検査など)
- ・治療内容(手術療法、放射線療法、ホルモン療法、化学療法など)
- ・有害事象内容
- ・治療経過
- ・摘出標本(免疫染色を行い、癌に対する特異的な抗体反応が存在するかどうか調べる)

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

## 5、研究期間

研究機関長の許可日～2025年3月31日

本研究では「4、研究に用いる試料・情報」を研究機関長の許可日あとに利用開始する予定です。

## 6、外部への情報の提供

該当なし

## 7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器科学分野 教授 今村 亮一

## 8.お問い合わせ先

長崎大学病院泌尿器科・腎移植外科 光成 健輔

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7340 FAX 095（819）7343

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）